研 究 者：清水　香奈（所属：新潟大学歯学部　歯学科５年）

研究題目：日本、インドネシアの歯学生における認知症知識に関する二国間比較アンケート調査

目　的：

日本では「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」に認知症に関する記載があり、大学在学中に歯科疾患との関連から認知症を学ぶ一方で、アジア諸国では、認知症教育がカリキュラムに導入されているのは未だ少ない。本研究は、認知症教育が歯学教育のカリキュラムに導入されている日本と、されていないインドネシアにおいて、歯学生の認知症に関する知識レベルを比較し、歯学部における認知症教育の実情と課題について検討することを目的とした。

対象および方法：

新潟大学歯学部歯学科２、４、６年生（127 名）およびエアランガ大学歯学部（インドネシア）の２、４年生（455 名）を対象に、Google フォームを用いたアンケート調査を実施した。アンケートは認知症知識評価指標（DKAS）および国籍、性別、認知症教育の受講経験の有無、認知症に関する情報への接触頻度から構成した。DKAS は、バックトランスレーションを実施し、原文（英語）から各母国語（インドネシア語・日本語）に翻訳した。DKAS は 25 問の正誤問題から構成され、１問１点として合計しスコア化し、平均点を基準に高値群と低値群に分類した。統計解析は、群間比較にはχ^2変数を用いた。次に DKAS を従属変数、国籍および性別、認知症教育の受講経験、認知症への接触頻度を説明変数としてロジスティック回帰分析を行い、オッズ比（OR）および 95％信頼区間（95％ CI）を算出した。有意水準はα=0.05 に設定した。

結果および考察：

アンケート回収率は 32.5％（日本：50.4％、インドネシア：27.5％）であった。国籍および認知症教育の受講経験の有無において、DKAS との関連が認められた（$p<0.01$, $p<0.05$）（表１）。

DKAS 高値に対し、「国籍が日本」【OR：2.40、95%CI：1.02-5.65】において、有意に高いオッズ比を示した（表２）。

表１　DKAS スコアと諸因子の関係（上段：人数、下段：%）

	因子（n）	低スコア	高スコア	p
国籍	日本	18	46	0.002
	64	28.13	71.87	
	インドネシア	64	61	
	125	51.20	48.80	
性別	男	25	25	0.27
	50	50.00	50.00	
	女	57	82	
	139	41.01	58.99	
受講経験	有	7	24	0.01
	31	22.58	77.42	
	無	75	83	
	158	47.47	52.53	
接触頻度	多	38	57	0.35
	95	40.00	60.00	
	少	44	50	
	94	46.81	53.19	

表２　多変量 Logistic 回帰分析（独立属変数：DKAS 高値）

項目		オッズ比	95% 信頼区間		P 値
国籍	インドネシア 日本	2.40	1.02	5.65	0.045
性別	男 女	1.68	0.85	3.31	0.14
受講経験	無 有	0.83	0.43	1.60	0.58
接触頻度	少 多	1.77	0.58	5.43	0.32

成果発表：（予定を含めて口頭発表、学術雑誌など）

第 74 回日本口腔衛生学会学術大会にてポスター発表予定。